

令和4年度全国学力・学習状況調査 結果分析・活用について

学校名	大磯町立国府中学校
-----	-----------

1 調査結果の分析で明らかになったこと

	習得の状況が良好であると判断できるもの	指導の改善・充実が求められるもの
国語	「知識・技能」「思考・判断・表現」の二観点で、バランスよく正答率が高かった。ICT機器を用いた授業が増えたことで、授業に対する理解度が増しているようであった。	一部の記述式問題の正答率が低く、無解答率も他の問題と比べると高い傾向にあった。自分の考えをまとめ、文章で表現する力の育成をより一層図る必要がある。
数学	「知識・技能」「思考・判断・表現」の二観点で、バランスよく正答率が高かった。特に「思考・判断・表現」の「記述式」の問題5問中3題が全国平均より5%以上高く良好であった。「知識・技能」についても9問中3題が5%以上高く良好であった。各四分野をみても全国平均を上回っており、基礎学力は定着しつつあると判断できる。	筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を証明する趣旨の問題は、正答率は全国と同等と考えられるが、無回答がやや目立った。説明を諦めてしまう生徒を根気よく補習等により支援し、寄り添う指導が必要であると考ええる。 また、正答率が低かった素因数分解の問題は、改訂され1年次に指導はしたが、実質は平方根指導時に丁寧に指導しているので現在は問題ないと思われる。
理科	「思考・判断・表現」の観点で、14問中5問が全国平均より5%以上高く、良好であった。特に、記述の問題2問中2問が5%以上高く良好であった。また、予想をもとに実験を行い、結果から考察している生徒の割合が高かったのは、日頃より実験前に予想し、レポートで、考え表現する習慣が定着しつつあると思われる。	正答率が全国平均より低かったのは、気圧に関することと化学変化時に粒子が保存されることである。どちらも目に見えない抽象的な概念であるので、改めて丁寧に復習していく事が必要と考ええる。

質問紙	「ICT機器をどの程度活用したか」「発表の場面でICT機器を使っているか」等ICT機器の活用に関する項目についてはすべて全国と比較して大きく上回っており、昨年度から引き続いてタブレット端末を中心としたICT機器を活用して研究を積み重ねてきた成果だと言える。思考力や表現力の向上にもつながっており引き続き効果的な活用について研究を進めていく。 「自分にはよいところがあるか」「先生はよいところを認めてくれていると思うか」という質問に対して肯定的な回答が少ない。自己肯定感については例年本校の課題ととらえ、教職員も意識して取り組んでいる。道徳教育・グループワークや日頃の関わりの効果を検証し、日々のあたたかい学級、学校づくりを継続して取り組んでいく。
-----	--

2 学校運営及び授業の充実にに向けた取り組み

- ・課題も含め多様な生徒一人ひとりに寄り添った支援をするために教職員、家庭、地域、外部機関等情報を共有し連携するチーム支援を行う。
- ・主体的・対話的で深い学びの視点を意識し、各教科や特別活動等でICT機器の効果的な活用、対話を取り入れたグループワーク等学校全体で授業の改善に取り組む。

3 家庭（地域）へのお知らせ ※取り組んでいただきたい内容や知っておいてほしい内容等

- ・調査の中で地域との関わりについて良好な関係が見られました。この温かい地域でこれからの地域社会を担っていく力を育成していくことができるようご家庭、地域と協力して取り組んでまいります。
- ・タブレット等のICT機器の効果的な活用等による学力の向上、道徳教育の推進を通した温かな人間関係づくり、安全でいじめのない環境づくりについて取り組んで参ります。
- ・各種たより、メール配信システム、ホームページ等を活用して保護者・地域の皆様へ情報を発信いたします。
- ・学習面・生活面について、ご家庭でのご支援、ご協力を引き続きよろしくお願いたします。